

行政視察報告書

視察報告者 牧 貴宏

【視察日】 令和6年1月23日

【視察地】 山口県山口市

【調査事項】 デジタル人材育成・仕事創出ネットワーク形成事業

【調査概要及び所感】

山口県の県庁所在地である山口市、人口は令和6年1月現在で約19万人、県内では下関に次ぐ人口規模である。

今回の調査の中心施設が、山口市産業交流拠点施設「KDDI維新ホール」。

新幹線の停車駅でもある新山口駅のすぐ側にあり、ここを起点に新たな交流、人と人のネットワークを構築する事等を目指している。

この施設にはコンサートや発表会に使用できる大ホール（県内最大2、000席）、新たなビジネスチャンス発掘や交流の場である産業交流スペース「メグリバ」等を設置。

目新しい試みとしては、シェアハウス型の若手人材育成施設「アカデミーハウス」がある。若者が1年間哲学的思考ベースの教育プログラム等によって学び、地域を牽引する次世代リーダーを育成するのが目的で、かつて松下村塾が存在した山口ならではの取り組みかもしれない。

アカデミーハウスで学んだ若者たちが、メグリバでも活躍する良い循環が出来上がる事を期待したいし、学びの場と活動の場がセットで用意されているのは良い試みと言える。

さて、山口市デジタル人材育成・仕事創出ネットワーク形成事業であるが、大きく3つの事業に分ける事が出来る。

① 『デジタル人材育成』

東京や福岡拠点のエンジニア育成スクールを、オンラインとリアルのハイブリットでメグリバにて開催、人材育成とスタートアップの創出を目指すもの。

ここまで4期行われたが、受講生は年々減って来ているのが課題で、この先検討が必要になってくるだろう。

仕組みとしては素晴らしいものの、周知と事業の運営方法が要研究といった所か。

② 『ネットワークの形成』

人とアイデアで山口のDXを推し進め、デジタルを活用して新産業創出を目指すもの。

プログラマーをはじめとしたクリエイターや、地域おこし協力隊、農家さん等が集う気楽な交流会が開かれているようだ。

人と人が繋がる事が大切なのは昔と変わらず、他業種からのアイデアや情報は思わぬ副産物をもたらす事がある。

全国には様々な起業家団体があるが、「難しい話はちょっと苦手」とか「今までとは違った集まりに行きたい」という方々も、気楽な交流会なら足を運ぶのではないか。

一つのモデルケースとして参考にしたい。

③ 仕事創出

DXコンサルティングやデジタル事業者とのマッチング支援を行っており、外需および内需の活性化を目的としている。

第三次産業が主の山口にとって、とても重要になってくる事業とも言え、マッチングが決まれば補助金も用意されている等、特に力が入った事業に感じた。

全体的にDXを行政主体で進めている印象で、まだまだ民間企業が乗って来てない感は否めないが、スピード感を持って進めていかないと、物事とは前に進まないと考える。

ちなみに新庁舎を建造中の山口市、庁内のDX推進の為にあえて書庫を作らないそうだ。

その影響で各部署書類のスキャンに日々追われているが、時代の転換期というものを感じるエピソード。

色々と参考になる調査で、今後とも山口市に注目していきたい。

【視 察 日】 令和6年1月24日

【視 察 地】 静岡県静岡市

【調査事項】 1歳・2歳児家庭への伴走型相談支援

【調査概要及び所感】

静岡県の県庁所在地である静岡市、人口は令和6年1月現在で約68万人の政令指定都市、県内では浜松市に次ぐ人口規模である。

今回の調査事項は第4次静岡市総合計画内の「しずおかハグくむ子育てプロジェクト」の一環であり、国主導の伴走型相談支援を補完するというもの。

国の支援は妊娠届出時、妊娠8ヶ月頃、出産後の3回面談を行い、合計10万円相当のギフトが貰え、その後は6ヶ月育児相談と1歳6ヶ月児健康診査、そして3歳児健康診査と続く。

しかし6ヶ月～1歳6ヶ月までは1年間、1歳6ヶ月から3歳までは1年6ヶ月と、相談支援の空白の時間が長い。

そこで静岡市独自の1歳児訪問と2歳児訪問を新たに設けたのが、今回のテーマとなっている。

静岡市の1歳・2歳児の就園率は約40%、そうではない60パーセントの養育者は日常的な相談先がなく、孤立感や不安感を抱えていると考えられる。

それを解消する為、市内21ヶ所にある子育て支援センターでの拠点型の相談に加え、子ども未来サポーター12名が訪問相談を行う事となった。

子ども未来サポーターは子育てや保育施設等の入所について、相談受付や情報提供を担い、現在は全て保育士資格者。

1・2歳児の養育者にとって、市役所に子供を連れて相談に行くのはかなりの負担になる。自宅に来てもらえるのは時間短縮だけでなく体力温存にも繋がり、精神的にも心強いだらう。大分市でも保育コンシェルジュが活動しているが、静岡市の事業内容等は参考になるだろう。担当者の話では子ども未来サポーターの訪問業務への抵抗感や、保育士資格者の確保等の問題があったそうだが、勉強会を開いたり方針変換等の対応の速さは評価に値する。

案内通知のはがきにはQRコード、スマホで読み込むだけで相談先が表示されたり、アンケートに答える事も出来、DX推進についても余念が無い。

全体的に走り出しの時点で完成度が高い事業を、素早い対応でブラッシュアップしている印象。

もちろん大分市としても子育て支援に力を入れているが、事業の内容や方向性を参考にして、良いところを取り入れたいものだ。

今後も調査研究を続け、より良い大分市を目指したい。